

絲綢之路

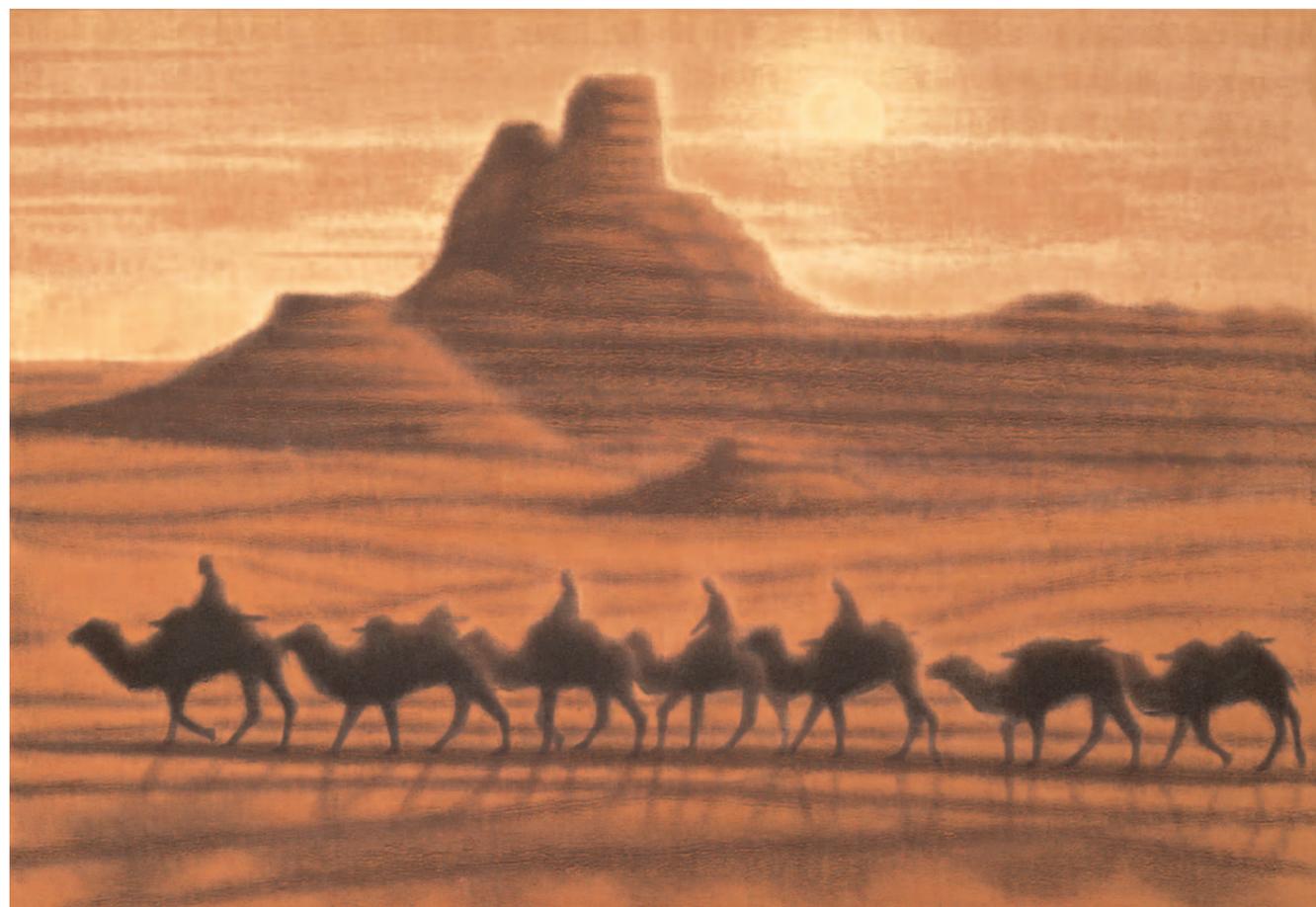
シルクロード

S I L K R O A D

2017-新春

No.83

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



楼蘭の朝 1991年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

頤和園、皇帝の庭園

(中華人民共和国)



ユネスコ世界遺産 (文化遺産) シリーズ

©UNESCO

頤和園は、十七世紀に築かれ、一七五〇年、清朝・乾隆帝の時代に整えられた。その美しさに磨きをかけてきたこの「皇帝の夏の宮殿」は、北京城西直門より北西へ十キロメートルの地にある。第二次アヘン戦争で英仏連合軍の侵攻により円明園とともに消失したが、一八八八年に再建して現在の名に改称された。北側の万寿山と南側の昆明湖、丘陵の斜面や湖水の景観、宮殿や邸宅、寺院、橋などが渾然一体となった情景を醸し出している。政治活動区、生活居住区、風景遊覧区の三つの区域に分けられており総面積は約二九〇ヘクタール。その四分の三は湖が占める。ここに紹介したのは頤和園のシンボル仏香閣である。(一九九八年に文化遺産として登録)

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

年頭の御挨拶

新たななる船出に寄せて



新年明けましておめでとうございます。

前理事長の宮田亮平先生の文化庁長官御就任に伴い、私は計らずも理事長の職に就くこととなりました。

財団の運営に関しては、私にとりまして全く未知の世界に等しかったのですが、懸案であったアフガニスタンからの流出文化財の返還や、広島市における第12回日中韓文化交流フォーラムの開催等の問題を多くの皆さまのご協力で無事、乗り越えることが出来、安堵いたしました。

昨年もいろいろな事がありました。東日本大震災発災後五年、悪夢覚めやらぬ四月に熊本地方が立て続けに地震に襲われました。皆さま御承知の通り、この震災においても多くの貴重な文化財が被害を被りました。私どもは文化庁と共にこのたびも被災文化財の救済・支援活動を行っております。東日本大震災にひき続き、熊本地震に対しても是非、あたたかい御支援をいただきたいと願う次第です。

昨年を回顧する中で心に残る大きな出来事のひとつが三笠宮崇仁殿下の薨去でした。当財団は設立時より殿下には名誉顧問として、御指導を賜っておりました。十一月三日、私は宮内庁からのお招きを受け、宮邸におけるお通夜に参列いたしました。安倍晋三総理、麻生太郎副総理が見守る中、殿下のこれまでの御恩に心より深く感謝、拝礼させていただきます。

私は物理学は全くの門外漢なのですが、昨年起

きた出来事の中で、気を引かれたのは、重力波の観測に成功したというニュースでした。重力波はアインシュタインが一般相対性理論の中で、その存在を予言していたのですが、予言から百年目にして初めて存在を確認出来たとのこと。時空の曲率の時間変動などと言われても、何のことやら……といったところが正直な感想ですが、素人にとって神秘的な気持ち覚えさせるところに魅力を感じた次第です。

私事で恐縮ですが、昨年もおかげさまで多忙な日々をおくらせていただきました。そうした中で、五月に開催された「G7伊勢志摩サミット」の会場で、オバマ米大統領をはじめ、各国の首脳に、現在研究・開発に取り組んでいるクローン文化財について披露、解説させていただけましたことが、なによりの励みとなりました。

二〇一七年が始まりました。今年、世の中がどう推移していくのか、それは神のみぞ知ることでしよう。しかし、アメリカをはじめとして主要国のリーダーが変わることによって世界が、ある意味、大きく翻弄されることは予想されます。

そうした世の中の流れの中で当財団は、と申しますと、ここ数年の傾向ですが、財政面での苦戦が続いております。マイナス金利に象徴されるような金融事情をはじめ様々な要因が重なってこうした状況を生み出していることは事実です。

私どもは、これを打破すべく、経費節約はもちろんのこと、支援者をふやすべく不断の努力をしております。

私の師である平山郁夫先生は、財団設立にあたって、文化による社会貢献、文化による世界平和への貢献を説いておられました。また、人の心を癒し、慰撫してくれるのが芸術の力だと、おっしゃっておられました。私は、このお言葉を自身の心としてこの一年邁進いたす所存です。

二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックを契機に私どもの事務局がある上野公園一帯も大きく変わろうとしています。財団も設立から二十九年目を迎えます。人間でいえば分別力を備えた大人です。私はもちろんのこと、事務局員はじめ関係者一同、今後進むべき道について真剣に考えてまいりたいと思います。

紙数も尽きてまいりましたが、東日本大震災被災文化財の救済と復旧の支援事業は当初の予定通り五年という区切りを昨年つけましたが、本年もまだ続けてまいります。

また、熊本地震の被災文化財の救済・復旧事業にもさらに力を傾注してまいります。

文化庁は国家戦略として「文化芸術立国」をめざしている、とうかがっております。私どもの仕事は地道な努力を必要とされています。しかし、その努力の積み重ねが世界に冠たる文化芸術立国という目標にむかって少しでもお役に立てれば、と願う次第です。

皆さま、本年も私どもの意をお汲み通りのうえ、よろしく御指導、御鞭達賜りますようお願い申し上げます。



理事長
宮廻 正明
(みやま しょうめい)

文化遺産の保存・修復を通じて世界の架け橋を目指す

——コンソーシアム10年を振り返って

文化財赤十字構想から生まれたコンソーシアムの
10年の歩みを俯瞰し、次の10年を考える……。

平山郁夫先生提唱の文化財赤十字構想から 「文化遺産国際協力コンソーシアム」がはじまる

故平山先生が提唱した国際文化財赤十字構想は、次のようなものでした。「人類の尊い文化遺産を国境を越えて守る活動であります。この教養は、敵味方の区別なく戦争で傷ついた者は誰でも助けるという赤十字の精神に共通しています」

平山先生は、赤十字の理念と機能を文化財（文化遺産）に適用できないかと考えられたわけでありました。世界の貴重な文化財を災禍から守り、傷ついた文化財を保存修復して後世に伝える手助けをしていきたいと願い、提案されたのです。

この構想は二〇〇六年六月に「海外の文化遺産の保



2006年、コンソーシアム設立記念フォーラムで挨拶する平山郁夫会長

護に係る国際的な協力の推進に関する法律」として立法化されました。この法律に基づき、外務省と文部科学省（文化庁）が共管の形で「文化遺産国際協力コンソーシアム」（略してコンソーシアム）が設立されたのです。破壊や消滅など危機にさらされている全世界の文化遺産を保護するお手伝いを国際協力の形で推し進めるといふ日本オリジナルの国際貢献事業です。

コンソーシアムの使命

コンソーシアムは、この平山構想を実施する政府・研究機関・団体などと連携、協力し、活動を推進するオージャパンの組織であります。二〇一六年現在で会員は四三一名にのぼります。

文化遺産国際協力を実施するための具体的な活動は（1）文化遺産のネットワーク構築、（2）海外の現場へ出て調査・研究、（3）情報の収集と公開、（4）広報などが掲げられています。コンソーシアムは活動計画を決め



2016年9月、10周年記念シンポジウムの会場の様子。



運営委員会会議の様子。



文化遺産国際協力コンソーシアム会長
上智大学アジア人材養成研究センター所長
石澤良昭（いしざわ・よしあき）

運営委員会、活動計画を立案する企画分科会、そして地域分科会（西アジア、東南アジア、東アジア・中央アジア、アフリカ、欧州、中南米）から構成されており、なかでも、地域分科会は各地域の専門家集団であり、世界各地の文化遺産の情報や課題にもとづき、国際協力の事業を実施しています。現場に出かけての調査・研究は、これまで二五カ国

以上に及び、その成果を英語・日本語の報告書として刊行し、全世界に公開しています。

その活動を現場から申し上げますと、相手国の保護すべき文化遺産の記録作成、保存管理計画の策定、有形文化遺産の保護修復や無形文化遺産の目録作成、人材養成計画、文化遺産保護に関する啓蒙に関する支援などを実施しています。

こうした国際協力の事業は、文化遺産を活用した地域の経済の活性化と発展に貢献していくこととなります。たとえば、観光振興による地域経済への波及効果、さらに政府開発援助（ODA）との連携が図られるならば、結果としてよりよい文化遺産の持続的な保護活動が維持されることとなります。

コンソーシアムの国際声明発表 ——ISIS（イスラミック・ステート）が シリアにある世界遺産パルミラを破壊——



2008年、モンゴルでの協力相手国調査。



2012年、スリランカでの協力相手国調査。



2012年、ミャンマーでの協力相手国調査を終えて。

「二〇一五年八月下旬、世界遺産のパルミラ遺跡のバール・シャミン神殿とベル神殿が破壊されました。さらに十月上旬、パルミラ遺跡の凱旋門も破壊されました。パルミラ遺跡は紀元前一世紀から紀元三世紀に栄えた都市遺跡です。パルミラ遺跡にはローマ時代の神殿、凱旋門、円形劇場、浴場なども残っていました。この文化遺産の破壊という野蛮な行為に対して私たちは怒りを表明したい。

シリアとイラクの遺跡や博物館を標的とする破壊活動に対し、これら文化財が換金の対象とされることをたいへん危惧しております。そうした違法な美術品や考古資料が日本国内に持ち込まれた場合、コンソーシアムは可能な限り、流出文化財の返還に協力したい。海外の文化遺産の保存・修復のお手伝いをすると同時に、経済協力と連携しながら文化遺産を活用する方法の助言などを実施しています。なぜ今、世界の文化遺産なのか。文化遺産を文化の「資源」と考え、そこにはたくさんの情報と可能性が含まれているからです。その情報を引き出し、往時の歴史・文化・経済を知ると同時に、新しい歴史の発見や発掘が観光客に提供されるのです」

コンソーシアム活動の原点再考 ——人間賛歌の再発見——



2012年、イリーナ・ボコバ・ユネスコ事務局長を歓迎する講演会を開催。



2015年、アセアン+3文化遺産フォーラムにおいて発表するウイラ・ローポチャナラット（タイ王国文化大臣）

平山先生が世界の文化遺産に託された崇高なメッセージは、人間賛歌そのものであります。往時の人たちは神社仏閣（文化遺産）においてひたすら祈り、吉兆を願ってきました。人々は寺院という空間に浄土世界を再現し、願いをかなえてもらう仏像という具体的な彫像や浮彫り図像の前にわが身を引き寄せて祈拝してきました。その祈拝の対象は時を経て文化遺産へと昇華したのです。そして、人々は文化遺産を通じて民族の歴史とその伝統文化をつぶさに知り、世界史の文脈で民族の文化の誇りを語ることになりました。

現代の日本においては、経済効率が優先しています。IT化が進み、顔の見えない他者との交友を楽しみ、思考力の要らない情報があふれています。しかし今、私たちは日本をはじめ世界の文化遺産に託された民族の歴史とその集団アイデンティティの結晶である文化遺産に価値を付与し、人類の遺産として、それらを保護するお手伝いを実施してきました。その結果、この十年間に国内関係者の文化遺産情報の共有化が進みました。

こうした文化遺産の国際協力は、世界に対して日本の文化力を示す活動の一つであり、日本文化のイメージの形成に最も大きな効果を発揮してきました。次の十年に向けての課題の二つは、指令塔としての事務局機能の強化と文化遺産の国際協力を立脚した日本の文化戦略に積極的に寄与していくことでもあります。

東日本大震災発災から六年目を迎える 文化財再生の現状と課題

大震災からすでに五年の時が経過。被災地は復興への道を進めている。しかし、そうした動きとは別に苦難の道を歩んでいる被災文化財も……。

被災地の現状

二〇一一年(平成二三)年三月十一日、突然、わが国を襲った東北地方太平洋沖地震、その後の大津波襲来から、間もなく六年が経とうとしている。東日本太平洋沿岸部の被災地では今、防潮堤の建設や、津波で浸水した土地の嵩上げ工事が急ピッチで進められ、一部ではその上に新しい街が造られ始めている。しかし、東日本大震災の傷跡はあまりにも深く、新たな都市での



自衛隊による絵画の救出(陸前高田市立博物館)。



精製水噴霧による書画の脱塩処理(NPO-JCPによる)。

生活の営みは、未だにその多くが見えない状況にある。博物館関連施設も同様で、被災した場所に再建を果たした機関、被災した建物を修理し再興を図っている機関、新たな場所に再建を目指し検討を進めている機関など、地域によって状況は大きく異なる。

被災した博物館及びその関連施設からは、発災後文化庁が組織した、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会をはじめとする全国の様々な機関、個人の献身的な支援によって、膨大な数の文化財、自然史標本等が救出された。岩手県太平洋沿岸部の中でも最も深刻な被害を受けた陸前高田市では、約五六万点の資料が被災した。それらのうち約四六万点余りが救出され、二〇一六(平成二八)年九月までに約十七万点が再生されたが、今もなお、約二九万点の資料が救出されたままの状態である。保管されていて、よみがえる時を待っている。

連携と続く安定化処理

大規模自然災害で被災した文化財の再生を図るうえで重要なポイントは、迅速な救出と劣化防止の措置、そして適切な保管にあることはいまでもない。陸前高田市の場合、博物館関係機関の地域的、広域的連携が効率的に機能し、救出

活動の過程で自衛隊の支援が得られたことも加わって、五六万点余りの資料を約二カ月という短い期間で救出することができた。救出活動の初期段階で、救出された資料を一次保管するための場所が確保されたことも、それを可能にした要因の一つである。

救出された文化財は多量の海水を含み、表面にはいたるところに土砂が固着していた。真菌や細菌が繁殖し、異臭を放つ資料も多数みられた。それらを救出したままの状態では、劣化が進行し、資料が有する学術的価値が大きく損なわれることはいうまでもなく、資料そのものが消失する恐れさえある。その防止には、津波がもたらした劣化要因を取り除き、長期にわたって安定的に保管できる状態にするための措置(安定化処理)を施さなければならない。この点が、東日本大震災で被災した文化財の再生を図るうえで、重要なポイントとなった。

わが国はもとより国際的にみても、津波で被災した文化財を再生させる方法は未確立である。資料が抱える劣化要因を可能な限り取り除き(除菌、除菌、脱塩等)、その再生を図るには、資料の形態や構成する素材に適した措置法を、個別に確立しなければならぬ。一連の措置を安全に、そして効率的に進めるには、資料の水への浸漬が不可欠である。

岩手県立博物館では、救出された資料を水洗可能な資料と水洗不能な資料とに分類し、最初に救出された岩手県指定文化財「吉田家文書」及びその関連資料の

中から、前者に分類される資料を選別し、試行錯誤を重ねながらそれらに対する安定化処理法を構築し、措置に当たった。措置の基本は、水中での除菌、次亜塩素酸ナトリウム水溶液による除菌、水に長時間浸漬しての脱塩である。この方法で平成二八年九月末現在、約二万五千点余りの紙を素材とする資料の安定化処理を終えることができた。



陸前高田市立矢作小学校による安定化処理体験学習。



東京文化財研究所による異臭発生原因の調査。

水洗可能な紙を素材とする資料の措置法が確立した後、その方法を軸装類、民具、繊維資料等に広げ、脆弱な資料に対してはスプレーによる噴霧、サクシオンテールを用いての吸引、吸水シートを利用した脱水を施した。また、変形を防止するため、石膏により、木部を被覆するなど、それぞれの素材に適した脱塩・乾燥方法を導入し、安定化処理を進めている。

いまでもなく、文化財を構成する素材は多岐にわたる。その取扱方も素材や形態によって大きく異なることから、安定化処理の実践には、文化財の形態や構成する素材に精通した、専門家の支援が不可欠である。陸前高田市立博物館関係資料については、東京国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、東京藝術大学、昭和女子大学、女子美術大学、NPO・JCP、岩手県立博物館が連携し、その措置に当たっている。このように、津波で被災した文化財の安定化処理

確立された技術の共有と普及

類似する大規模自然災害の発生を予測することはきわめて難しい。確立された安定化処理技術を国内外に広く公開し、その情報共有を図り、災害が発生した場合には、迅速に対応できる準備をしておく必要がある。この目的を果たしつつ、これまで被災文化財の再生に暖かい御支援をいただいた全国の方々に活動の現状を報告し、活動に対する理解を深めることを目的として、平成二六年度から、岩手県立博物館を中核館とする「津波により被災した文化財に関する保存修復技術の構築と、専門機関の連携に関するプロジェクト」実行委員会を結成し、公益財団法人日本博物館協会主導のもと、

文化庁の御支援をいただきながら、確立された安定化処理技術の共有をテーマとするワークショップの実施、ガイドブックの発行、特別展の開催などを行ってきた。

今後の課題

前記に加え今年度からは、被災地の小学生を対象に、安定化処理現場の見学と、安定化処理の体験実習を行っている。この取り組みを通し、郷土に伝わる貴重な文化財を後世に伝えるためには、多大な努力を払う必要があることを、広く伝えていく予定である。

順調に進んできた安定化処理ではあるが、最近、震災直後に安定化処理を施した書籍類の一部に、変色と異臭の発生がみられるようになった。その原因と対策について、東京文化財研究所と共同で調査を進めている。目下のところその主因は、魚に起因する物質の分解によるものと推定している。これまでの検討結果をふまえ、試験的に中性洗剤を使用した洗浄工程を新たに加え、処理に当たっているが、原因の確定と処理方法の確立は今後の課題である。



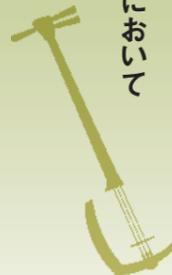
岩手県立博物館
首席専門学芸員
赤沼 英男
(あかぬま ひでお)



音の再生に成功したリードオルガンの演奏会(名古屋市博物館)。

三味線の今昔

邦楽の中心的楽器であり、人形浄瑠璃や歌舞伎において
場面を盛り上げるのに必要不可欠な三味線。
その三味線が直面している危機とは……。



東京藝術大学音楽学部邦楽科
准教授
小島直文（こじま・なおふみ）

の棹にカーボンの細いパイプを入れ、
安価な紅木・紫檀でも音の響きが良
くなる棹の製品化も試みました。次は皮
の段階になり日本皮革の専門の方々も
参加していただき、カンガルーの皮を
はじめ他の皮も張ってみました。な



長唄三味線の実演。右から関口奈々恵（三味線）、筆者（三味線）、小林百合（唄）、
村尾麻理子（唄）。敬称略。

であられました。菊岡裕晃（一九二八〜
一九九九）先生は、いずれは入手困難に
なるであろう三味線の皮、ワシントン
条約に影響された象牙・鼈甲等の事を
昭和50年代に危機感を感じられ、その
頃から合成皮革の皮の開発に携わって
いらっしやいました。当時の音楽家の
皆様はまだ大丈夫だよ、そんなに急が
なくても、という意見が強かったと思
います。

その後、「邦楽器音響研究会」を平成
二年に大学で発足されました。当初は
菊岡裕晃教授を会長に、味見亨教授、
（株）アイボラー社長 竹橋正皓氏、電
子総合研究所の菊池恒男氏、根岸菊岡
三絃店 堀込敏雄氏、大貫紀子氏（藝
大）、小島が会員となり、隔週毎に会議
を行いました。資金ゼロからの出発で
したが、翌平成三年に財団法人サウン
ド技術振興財団様から助成金を受け、
先ず入手困難になった象牙の代替品と
して、当時あったプラスチック撥より
も強度と粘りがあり、汗を吸い易い材
質を求め何回も作り直し、撥・糸巻き・
駒は商品化されました。同時に三味線

三味線の伝来

皆様ご存知の三味線は日本の代表す
る有棹弦楽器です。

難しい言葉で始まりましたが、文楽
の人形浄瑠璃・歌舞伎には無くてもな
らない楽器です。また戦前までは、商
家に生まれました女性のお稽古事は、
茶道・華道の他に箏（琴）・三味線は必
ずといってよいほどの習い事でした。

三味線の伝来・由来は諸説ありま
すが、シルクロードを経て中国の三絃
が琉球（沖縄）に伝わり三線となり、
その三線が室町時代末期の永禄年間
（二五八〜一五七〇）織田信長の時代、
種子島に鉄砲が伝わった数年後、大阪
の堺の港に渡来しました。

最初に手にしたのは琵琶法師との事、
ニシキヘビの皮が張ってありますので、
大きな琵琶のバチで演奏したために蛇
のウロコに引っかかり演奏し難く、も
ちろんニシキヘビは日本にはいません
ので手近な小動物の皮を先ず張り、落
ち着いたのは猫・犬皮であったと推察

多くの難問をかかえての 三味線づくり

日本独自と申しましたが、三味線の
棹は紅木・紫檀・花梨等の木材、皮を張っ
てある胴も花梨の木で、全部東南アジ
ア近辺からの輸入材です。演奏する撥、
付属の駒・糸巻きは象牙で、張ってあ
る皮も現在は輸入品です。唯一、糸（絃）
は近江・京都他の数ヶ所で、国産の生
糸を使い製造しています。糸の他はほ
ぼ輸入に頼っていますのが現状です。

私の恩師、東京藝術大学名誉教授

しくなってきました。

この一番困った現状を受け止め、菊
岡先生が長年新素材による三味線の研
究・開発に情熱を傾けられたご遺志を
継いで、平成二六年五月「邦楽器音響
研究会」を演奏家五名、賛同者三名、
東京邦楽器商工業協同組合の皆様と再
スタートさせました。幸いにも三味線
皮の代替品開発には、公益財団法人
JKA様より二年間の継続補助が認め
られ現在に至っています。

以前評判の悪かったカン
ガルー皮を再度代替皮に
決めました。カンガルーも
動物には変わりありません
ので、カンガルーが良いか
悪いかは難しい問題でした
が、現在オーストラリアで
人口の二倍以上増え、被害
も多く捕獲されており、食
肉・シユース等に加工され
ていることもあり、オース
トラリア政府からの許可を
得ての始まりでした。研究
会といたしましては、今回
は鞣し工程を三味線皮の専
門の鞣し職人さんにお願
いいたしました。

三味線の未来

お話は少し戻りますが、
三味線と一言に申ししまし
ても色々な種類がございま
す。先ず太棹には文楽の人
形浄瑠璃の義太夫、次に箏



三味線は「わざ」のかたまりだ！若い受講生を指導する筆者（2014年11月。東京藝術大学正木記念館にて）。



三味線の胴の革張りの
デモンストレー
ション：堀込敏雄（根
ざし 菊岡三絃店）。



ロスです」で済めば、私は良しと考えま
す。
今後の課題は、二〇二〇年に向けて
屋外の炎天下でも湿気の中でも、心配
無く演奏できる三味線皮ができます事
を目標としております。
皆様乞うご期待!!

筆者略歴

一九七五年、東京藝術大学名誉教
授・故菊岡裕晃師に師事。八三年、東
京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。同大
学院音楽研究科修了。二〇〇九年より
現職。邦楽科主任。
大学院生、学部生、藝大付属高等学
校生を指導。一九九〇年から九八年
まで菊岡師と続けた「邦楽器音響研究
会」を二〇一四年から再度立ち上げ、
三味線の皮の新素材を開発研究中。
邦楽発展のため後進の指導に情熱
をそそいでいる。



第12回

日中韓文化交流フォーラム報告

財団専務理事
小宮浩 (こみやひろ)

今回のテーマは、日中韓の食文化と国際交流。場所は豊かな食材で知られる広島。日本三大酒処でもあり、海・山の幸に恵まれた地で論じられたことは……。

風光明媚な広島で

第12回日中韓文化交流フォーラムは、昨年十一月十六日から十九日まで、広島市を中心とした会場で開催されました。今回のテーマは「日中韓の食文化と国際交流」です。

初日の十六日に広島県ならびに広島市主催の歓迎宴がフォーラムの会場ともなる「ANAクラウンプラザホテル広島」で開かれました。

開宴に先立ち、地元の安田学園女子中学高等学校の皆さんが、日本古謡の「さくら」、中国民謡の「茉莉花」、そして韓国の「故郷の春」を熱唱。最後



安田学園女子中学高等学校の皆さん。

に今では、すっかりこのフォーラムのテーマソングとなった観がする「わたしは未来」が三カ国



歓迎宴の乾杯は宮廻理事長の発声で。

哲男広島市副市長、また、大阪から李天然中国総領事、広島に総領事館をもつ韓国からは徐張恩総領事が御出席くださいました。

こうした雰囲気の中で、美しい声のアペリチフによって歓迎の宴も大いに盛り上がった次第です。

広島県の滋味佳肴、地元産の名酒の数々、加うるに「上野一陽会」の皆さんによる琴演奏や「仙助流南京玉すだれ」が宴に花を添えてくださいました。

何が話し合われたか

十一月十七日、午前九時よりフォーラム開始。日本側代表団は国際交流基金顧問の小倉和夫氏を委員長に十三名、このうち当財団からは宮廻正明理事長以下五名、東京藝術大学より「わたしは未来」の作曲者松下功教授がオブザーバーとして出席しました。



フォーラム参加者の皆さん。

中国は中国人民対外友好協会会長の李小林委員長以下六名、韓国は韓日文化交流会議委員長の鄭求宗委員長以下七名の先生方が出席されました。



左より鄭求宗、小倉和夫、李小林の各氏。

小倉委員長は「食事を共にすることは平和への第一歩」というアラブの諺を引用して、今回のテーマの意義を強調。李小林氏は、このフォーラム

講師のお話

ゲストの講師陣の一番手は広島市の日本料理店「喜多丘」の主・北岡三千男氏。

北岡氏は「広島県の食文化」を語ったあと、刺身、焼魚以外は、日本料理は出汁を使って味が構築されていると語り、昆布と鰹節を用いて香り、旨み、濃くを備えた出汁の引き方を実演。出席者全員、その微妙な味にすっかり感動されたようでした。

中国の北京師範大学文學院教授の万建中氏は「中国の飲食文化の魅力」について熱弁をふるわれました。

氏は東洋、特に中国の食と西洋の食との比較論を語り、その中で近年は食品工業の発達もあって、東も西も互いに融合した旨さを作り出したと論じました。

氏によれば、仏教の影響もあって、中国の料理は総じて精進料理だという。それはともかく、草食民族である中国が西欧のサッカーに弱いのは彼らは肉食民族であり、闘争心が強いからだ、という新説(?)を披露。笑いを誘いました。

中華料理の宴席に円卓が使用されているのは、人間関係の良好促進に、平等性の促進に大きな効果をもたらすと、そしてなによりも平等の心を大いに育むものであると述べて締め括られました。

韓国の全州大学校韓食調理学科教授の韓福眞氏は「韓国料理の世界観」について話されました。

氏によれば韓国の料理は食材も調理法も五行説に則っているとのこと。したがって、食材は青、赤、黄、白、黒の五色のものを、味付けは甘味、塩味、酸味、苦味、辛味の五味を基にそれぞれ組み合わせる調和のとれた料理に仕上げる、と映像と共に語られました。そこには器も含めて見た目の美しさにも神経を配るとのことです。

氏のお話は、キムチから宮中料理、家庭料理に至るまで、伝統の味を後世に伝える苦労と努力等々幅広いものとなりました。

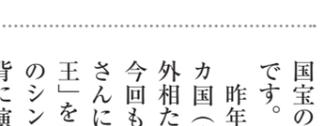
この後、講師の先生方への質疑応答



実演する北岡三千男氏。



万建中氏(中国)。



韓福眞氏(韓国)。

があり、その後、各国の委員の方からの発言が続きました。

三カ国によるさらなる文化交流の推進。文化は国境を越える、言葉はいらぬ——特に料理には。食文化を切り口にフォーラム発展の力に。食生活の進展、拡大が地球上の生物多様性の破壊につながらないよう、三カ国は留意しよう、等々の意見が出されました。そして李小林氏のフォーラムの創始者のひとりでもある平山郁夫先生への感謝の辞で全体会議を終えました。

宮島へ

広島には原爆ドームという負のユネスコ世界遺産と厳島神社という二つの世界遺産があります。

フォーラム終了後、原爆ドームの眼下にある、もとやす棧橋からフェリーで瀬戸内海をクルージング。中韓の代表団の方たちを宮島の厳島神社へ御案内しました。

御存じのように厳島神社は平清盛によって現在のよう海上に立つ大規模な社殿が整えられました。この神社は平家の信仰が厚く、平家一門が納めた

生口島へ

十一月十八日、この日は朝九時に、まず広島県

立美術館を訪問。美術館の特別の計らいで、

平山郁夫先生が生涯一点しか残されなかった原爆投下を描いた「広島生変図」を代表団に御覧いただきました。

この作品に込められた先生の心を芸員の方から聞かされた代表団の皆さんは、自ずと頭をさげておられました。

この後、美術館のすずめで紅葉の盛りである隣接する国の名勝・縮景園を見学。そしてバスで生口島へむかいました。



平山郁夫作「広島生変図」の前で(広島県立美術館)。



平山郁夫先生の墓前で(法然寺)。

生口島は、平山郁夫先生の生まれ故郷です。平山先生の霊は平山家の菩提寺である法然寺で眠っております。その法然寺をまっ先に訪問。瀬戸内海に浮かぶこの島は、柑橘類の収穫の盛りでした。代表団は、法然寺で先生の実弟で平山郁夫美術館館長の助成氏と実妹の眞梶伊勢子さんの出迎えをうけ募参。そして、かつて平山先生が定宿にしていた旅館つづ井へ。

平谷祐宏市長も駆けつけられ、昼食会。その後、美術館、先生の生家、耕三寺等を見学。天候に恵まれた日程ではありましたが、広島への帰途は雨模様。それがえって緊張感から解放させてくれたようにも思われました。

十一月十九日。代表団は無事、帰国されました。広島県、広島市はじめ多くの関係各位の御協力でのたびの日中韓文化交流フォーラムは無事成功裏に終了することが出来ました。ここに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(写真: 仙波志郎)

三笠宮崇仁親王殿下に

喪心より哀悼の意を捧げます

公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団

平成二十八年十月二十七日、三笠宮崇仁親王殿下が心不全のため聖路加国際病院にて薨去されました。享年百歳でした。

殿下は古代オリエンタル史研究の学者というお顔をお持ちでした。その所為もあつたのでしょうか。平山郁夫先生とは最初から馬が合ったようです。当財団の設立にあたっては、平山先生の要請を受け、こころよく名譽顧問をお引き受けくださいました。

殿下は、平山先生の展覧会の東京会場にはよほどの事情が生じない限り、お見えくださいました。殿下が大変気さくなお人柄であるエピソードは、枚挙に遑が無いようです。事実、平山先生の生まれ故郷である生口島（尾道市）にある「平山郁夫美術館」



平成22年2月2日、平山郁夫・元財団理事長の「お別れの会」にて（ザ・プリンス パークタワー東京）。

には開館早々に百合子妃殿下とともにお見えくださいました（平成九年）。

また、平成十二年に東京ドームホテルで開かれた平山先生の古希を祝う会にも御夫妻で御臨席くださいました。その際、平山先生御一家や御親類の方たちと記念撮影に納まっておられました。

殿下は「平山さん」とはおっしゃらずに「平山先生」とおっしゃっておられました。殿下は古希を祝う会で次のような意の祝辞を述べられております。

「平山先生のなされていたお仕事には、私は常に敬意を抱いております。先生は私とくらべると十五歳近くお若いのですから、まだまだこれからです。頑張っていたください」

ユーモアを交えて祝辞を述べられる殿下のお姿が非常に懐しく感じられます。

御存じのように、平山郁夫先生は平成二十一年十二月に幽明界を異にされました。翌年の二月に開かれたお別れの会で、献花に臨まれる殿下のお寂しそうなお姿が今も強く脳裏に残っています。

このように平山先生との強い絆があればこそ、殿下は名譽顧問として私どもの心を支えてくださったと思えます。事務局一同、役員名簿のトップに殿下の御名前が記されていることで、心安まるものを覚えました。

平山先生と再会した殿下は、今ごろどのようなお話をされているのでしょうか。病魔から解放された平山先生もお好きだったお酒を嗜まれているかもしれません。



平成17年1月11日、平成の洛中洛外「平山郁夫展」の会場で平山先生の説明を受けられる三笠宮殿下御夫妻（日本橋三越本店）。

おふたりとも盃をかわしながら積もる話に花を咲かせていることと思います。

三笠宮殿下は、大正、昭和という激動の時代を過ごされました。その御生涯における御苦勞は余人には絶対に分からぬものと拝察いたします。

ここに長い間殿下より賜りました御恩に深く感謝申し上げますとともに、御冥福を心より御祈念申し上げます。

小宮浩・記

写真・仙波志郎

事務局報告

平成二十八年年度助成事業の採択状況について
平成二十八年年度助成事業の申請、採択状況について次のとおり報告します。

文化財保存修復助成事業	申請数	採択数	決定金額
美術工芸	十四	五	百三十万円
建造物	三十六	十五	六百七十五万円
有形民俗	七	五	百七十五万円
記念物他	一	一	二十万円
計	五十八	二十六	一千万円

二十七年都府県の教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。



修復された「大國魂神社本殿」
（福島県いわき市）

芸術研究等助成事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
二十	十二	三百八十万円

国際協力事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
一〇	七	三百八十万円

重点助成事業

(1) 東日本大震災被災文化財復旧支援事業
五県の教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

美術工芸	申請数	採択数	決定金額
建造物	十六	九	三千六百七十万円
無形	七	七	六百三十六万円
記念物他	三	一	五十万円
計	二十七	十八	四千四百十六万円



修復された「阿彌陀如来脇侍像（観音菩薩造）」
（岩手県光勝寺）

(2) 尼門跡寺院文化財保存修復助成事業
本事業は、平成二十二年から企業等のご支援を受けて毎年一件の助成を実施しているものです。平成二十二年からは東芝プラントシステム株式会社様のご支援・ご協力を得て実施しており、今年度は次のとおり助成を予定しています。

○真如寺蔵「木造月鏡軒玉山尼（理光尼）坐像」



平成27年度助成
真如寺「高徳院宮御像」(修理中)

賛助会員ご入会とご寄付を頂きました皆様

●平成27年9月16日から12月10日まで

敬称略 順不同

- ☆賛助会員
- 個人（正）会員（氏名／住所）
- ☆寄付金
- 文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付（公財）日本交通文化協会（株）ぐるなび

ヤフーネット募金（138名様）
文化財保存修復支援カレンダー募金

- 松尾大社本殿等修復支援事業に対する寄付
宝酒造（株）他65件
- 東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業に対する寄付
国府台女子学院 美術・デザインコース（公財）霊山顕彰会

- 熊本地震被災文化財救援・修復支援事業に対する寄付
京都府立鴨沂高等学校 3年1組・2組・3組・5組
志波城跡愛護協会
桃天会
東邦学園 東邦高等学校 美術科 3年N組
東邦学園 東邦高等学校 アニメ研究部
歩く会ポコアポコ事務局
NPO法人楽古

お願い

◎熊本地震被災文化財の救援と復旧のための募金のお願い
昨年四月以降、熊本県を中心に発生した熊本地震により被災した文化財の保全に向けて、募金活動を行っております。いただきました浄財は、熊本地震被災文

化財レスキュー事業等、被災地域の文化財の救援のために活用させていただくとともに、被災文化財の修復・保存のために活用させていただきます。

皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。

銀行振込①銀行名②口座番号③名義

- ① 三井住友銀行 上野支店
- ② 普通 8399622

③（公財）文化財保護・芸術研究助成財団
※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただくと幸いです。

（電話）〇三二五八五一一三二二一

郵便振替①振替番号②加入者名

- ① 00160・5・12319
- ②（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

※通信欄に「熊本地震」とお書きください。

◎賛助会員ご入会及びご寄付（前記のご寄付を除く）のお願い

（賛助会員）

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同をいただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。

- 法人正会員 年額（1口） 50万円
- 個人正会員 年額（1口） 1万円
- 維持会員 年額（1口） 10万円

（ご寄付）
賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けています。ご寄付には次の様々な方法があります。

(1) 銀行振込又は郵便振替
銀行又は郵便局から、振込によるご寄付を受け付けています。

（銀行振込）

- 三井住友銀行 上野支店
- 普通 6615500

- みずほ銀行 上野支店
- 普通 4478576

○三菱東京UFJ銀行 上野中央支店
普通 0796384

○郵便局から振込み

00160・5・12319

※口座名義は、銀行、郵便局からいずれも
(公財)文化財保護・芸術研究助成財団

(2)インターネットによるご寄付

次の手順によりインターネットから、ポ
イント又はクレジットカードによるご寄
(募金)を受け付けています。

←「YAHOO! JAPAN ネット募金」

←「文化・スポーツ」

←「文化財保存修復支援募金」

←「ポイント」又はクレジットカードを選択
←募金

(3)特定寄付信託

当財団は、みずほ信託銀行と特定寄付信
託に関する契約を締結しています。寄付信
託に関する詳細につきましては左記にお問
い合わせください。

○みずほ信託銀行個人営業推進部
電話・03・3274・9203

(4)クレジットカード

「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付
きクレジットカードによる寄付も受け付
けています。

当財団は、㈱ジャックスと連携し、同社
のカードを利用してショッピングした場
合、利用額の一定割合を、同社のご負担に
よりご寄付をいただくものです。

カード作成のお申込み等の詳細は、当財
団のホームページをご覧ください。事務
局までお問い合わせください。

(5)遺贈

「遺贈」による寄付・相続財産の寄付を
承っております。

「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産
を特定の人や団体に分け与えることをい
ます。受取人として、法定相続ではなく遺
言書により、一部またはすべての財産の受
取人として、公益財団法人文化財保護・芸
術研究助成財団をご指定いただくことがで

た(国史跡及び名勝に答申されました)。
詳細は直接施設にお問合せください。

(演奏会)

☆東京藝術大学楽奏堂

(○五〇・五五二五・二三三〇〇)

①藝大定期室内楽第43回 第1日(千五百円)

二月四日(土) 十四時

②藝大定期室内楽第43回 第2日(千五百円)

二月四日(日) 十四時

③東京藝大チェンバロークエストラ第28回

定期演奏会(千五百円)

二月十二日(日) 十五時

④モーニングコンサート13(千円)

二月十六日(木) 十一時

⑤勝部大退任記念演奏会(無料) 往復ハガキ

による事前申込制(問合せ:音楽科教員室

〇五〇・五五二五・二三三二)

⑦藝大21第11回奏楽堂企画学内公募演奏

会(無料)

三月二十九日(水) 十九時

☆東京文化会館(○三・三八二八・二二一一)

①藤原歌劇団「カルメン」

二月三日(金) 十八時三十分

二月四日(土) 十四時

問合せ:日本オペラ振興会チケットセンター

〇四四・九五九・五〇六七

②東京文化会館バックステージツアー

二月七日(火)

一回目 十四時三十分(一時間半程度)

二回目 十九時(一時間半程度)

問合せ:東京文化会館経営企画課

〇三・三八二八・二二一一

③東京二期会オペラ劇場「トスカ」

二月十五日(水) 十八時三十分

二月十六日(木) 十四時

二月十八日(土) 十四時

二月十九日(日) 十四時

きます。財団に寄付をされた場合、相続税
の控除を受けることができます。

遺贈をご検討いただく際は、お電話かメ
ールにて当財団までご相談ください。

(6)商品券・図書券等による寄付

ご家庭のタンスや事務室の机等の中で
眠っている、未使用の商品券、図書券、切
手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券
、Q.U.Oカード、テレホンカード、書き損じ葉
書等もご寄付として受け入れております。
お送りいただく場合は、当財団事務局宛
てに封書にて郵送下さい。

◎税法上の優遇措置

当財団は、「公益財団法人」としての認
定を受けておりますので、寄付金には税法
上の優遇措置が適用され、所得税、法人税
当の控除が受けられます。詳しくは当財団
ホームページでご確認いただくか事務局ま
でお問い合わせください。

お知らせのご案内

(1)平成二十九年年度助成金の申請に関するお知らせ

平成二十九年年度助成事業にかかる助成
金申請について、左記のとおり受け付けを
行っています。詳細は、当財団ホームペ
ジ(助成金のご案内欄)でご確認ください。

①例年実施の文化財保護、芸術研究に係る
助成事業

②東日本大震災被災文化財復旧支援事業

【最終年度】

(申請期間)

平成二十九年一月十日(二月末日(必着)

※熊本地震被災文化財救援・修復支援事業

に関しては、詳細が決まりしだいお知らせ

します。

(2)文化財保存修復支援カレンダープレゼン

トのお知らせ

当財団広報誌(秋号No.82)でプレゼン

トのお知らせをしました2017年版の文

化財保存修復支援カレンダーについて、十

問合せ:二期会チケットセンター

〇三・三七九六・一八三一

④警視庁音楽隊グランドコンサート2017

二月二十二日(水) 十九時

問合せ:警視庁音楽隊

〇三・三五八一・四三二一

⑤都民劇場音楽サークル 第644回定期

公演「ファウスト&ケラス&メルニコフ」

二月二十三日(木) 十九時

問合せ:都民劇場

〇三・三五七二・四三二一

⑥NBAバレエ団「ロミオとジュリエット」

二月二十五日(土) 十八時

二月二十六日(日) 十四時

問合せ:NBAバレエ団事務局

〇四・二九三七・四九三二

☆上野学園 石橋メモリアルホール

(○三・三八四三・三〇四三)

①ランチタイムコンサートvol.73

「演奏家コース学生による演奏会」

二月八日(水) 十二時十分

②教員と学生のコラボレーションによるコ

ンサートⅦ 伝統と革新Ⅱ

二月一日(土) 十四時

③ジングアカデミー東京 第9回演奏会

二月二日(日) 十四時三十分

④アンサンブルSAKURA

第33回定期演奏会

三月五日(日) 十四時

⑤ランチタイムコンサートvol.74

「学生による企画シリーズ」

三月十五日(水) 十二時十分

受賞・受賞

皆さまに大変御協力を賜りました当財団
の二〇一七年版「文化財保存修復支援カレ
ンダー」が、このたび第68回全国カレンダー
展において、文部科学大臣賞(金賞)を受
賞いたしました。心より感謝・御礼申し上
げます。ありがとうございます。

二月十四日に応募者全員に発送しました。

(3)展覧会・演奏会等のご案内

上野の山の文化施設で開催される展覧会
や演奏会等様々な催し物の一部をご紹介します。
また、ご利用のご参考にしてください。
なお、ここに掲げた以外の催し物等詳細は
それぞれの主催者等にご確認ください。

(展覧会等)

☆東京国立博物館

(○三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル)

①特別展「春日大社 千年の至宝」

一月十七日(火)～三月十二日(日)

☆国立科学博物館

(○三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル)

①企画展「花粉と花粉症の科学」

平成二十八年十二月二十三日(金)～三月二十日(月)

②特別展「世界遺産ラスコー展」

ニヨン人が残した洞窟壁画展」

平成二十八年十一月一日(火)～二月十九日(日)

☆国立西洋美術館

(○三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル)

①企画展「シャセリオー展」

十九世紀フラ

ンス・ロマン主義の異才」

二月二十八日(火)～五月二十八日(日)

☆東京藝術大学美術部

(○三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル)

①「第65回東京藝術大学卒業・修了作品展」

一月二十六日(火)～一月三十一日(火)

②特別展「雪村」

「奇想の誕生」

三月二十八日(火)～五月二十一日(日)

☆国立国会図書館 国際子ども図書館

(○三・三八二七・二〇五三)

☆黒田記念館

(○三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル)

①「黒田記念室」原則毎週火・日曜日

☆東京都美術館

(○三・三八二七・六九二二)

①特別展「ティツィアーノとヴェネツィア

派展」

一月二十一日(土)～四月二日(日)

②都美セレクション 新鋭美術家2017

二月十九日(日)～三月十五日(水)

☆上野の森美術館



文化財保存修復支援カレンダー

今号の表紙

平山郁夫 楼蘭の朝

シルクロード・ロマンを象徴する地と言
えば楼蘭であろうか。この地に魅せられた
平山画伯は、一九八六年と八九年にここを
訪れている。二度の取材旅行は、よほど画
家の創作意欲を刺激したとみえ、楼蘭をテ
マにした傑作を画伯は数多く描いている。
「楼蘭の朝」は楼蘭三題と称した作品群の
一つで、他に「夕」と「月」がある。
楼蘭の遺跡はタクラマカン砂漠の灼熱の
大地の下に眠っている。この国が、いつ生
まれ、そして滅びたか、その真実はまだ解
明されていない。さまざま
る湖ロプノ
ルや発掘され
た美女のミイ
ラなどが楼蘭
をめぐる物語
に花を添え
る。平山画伯
も「鄯善王妃
子(楼蘭の王
女)」という



楼蘭の朝 1991年

(○三・三八三三・四一九一)

☆都立旧岩崎邸園

(○三・三八二二・八三四〇)

岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久
彌の本邸として造られ、園内の歴史的建
造物は国の重要文化財に指定されています。

詳細は直接施設にお問合せください。

☆台東区立下町風俗資料館

(○三・三八二二・七四五二)

江戸の風情をとどめる大正時代の東京・
下町の街並みを再現するとともに、台東区
を中心とした下町地域にゆかりの資料、生
活道具や玩具など、さまざまな資料を展示
しています。

詳細は直接施設にお問合せください。

☆台東区立一葉記念館

(○三・三八七三・〇〇〇四)

処女作「闇夜」原稿や、「たけくらべ」草稿
等重要な資料を展示しています。

詳細は直接施設にお問合せください。

☆台東区立朝倉彫塑館

(○三・三八二二・四五四九)

①特集展示「動物表現の魅力」

平成二十八年十二月十七日(土)～三月一日(水)

日本近代彫塑界の最高峰であり、文化勲
章受章者である朝倉文夫が住宅兼アトリエ
として使用していた建物で、「墓守」「大隈
重信肖像」「仔猫の群」「時の流れ」など、朝
倉文夫の彫塑作品を展示しています。

詳細は直接施設にお問合せください。

☆台東区立書道博物館

(○三・三八七二・二六四五)

洋画家であり書家でもあった中村不折に
より昭和11年に開館された博物館で、不折
が収集した中国及び日本の書道に関する古
美術品、考古出土品などを展示しています。

詳細は直接施設にお問合せください。

☆横山大観記念館

(○三・三八二二・一〇一七)

上野池の端不忍池のほとりにある横山大
観旧宅は、木造二階建ての数寄屋風日本家屋
です。一九〇九年に、大観自身のデザインに
より建てられ、自宅兼画室として使用しまし

名作を描いている。

朝日をあびて朽ち果てた仏塔の下に行く
キャラバン。廢墟と化した遺跡に画伯はど
んな想いを寄せたのだろうか。この作品が
語りかけてくる楼蘭の物語に想像力を巡ら
すのも悪くないかもしれない……。

☆編集後記

皆さま恙無く新年を迎えられ、寿れたこ
とと拝察いたします。

昨年は懸案であったアフガニスタンから
の流出文化財の正式返還や日中韓文化交流
フォーラム等の課題を無事クリアすること
が出来、まずまずでした。

あまりまだ報道されていないようです
が、熊本地震において装飾古墳の被害が大
分大きいとのこと。東日本大震災にひき続
き、熊本地方の被災文化財の復旧・支援事
業を今年はどう取り組むべきか、関係者の
皆さま共々よく考えてまいりたいと思いま
す。

財団をとりまく環境は楽観を許されるも
のではありません。私たちスタッフ一同、
課せられた職務を全うすべく努力いたして
まいります。その結果が少しでも社会に貢
献できればと願う次第です。本年もどうぞ
よろしくお願ひ申し上げます。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)

二〇一七年 新春号 通巻第八十三号

★平成二十九年一月二十日発行

★編集発行/公益財団法人文化財保護・

芸術研究助成財団 事務局◎

〒110東京都台東区上野公園十二一五十

電話 (03) 五八八五二二二

FAX (03) 五八八五二二二

URL: http://www.bunkazai.or.jp/

E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp

★印刷 株式会社東都工芸印刷